

## 第 5 回 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会

### 議事概要

平成 30 年 2 月 5 日(月) 13 時 00 分～  
徳島市役所 会議室

#### 1. 開会

##### 【会長】

第 5 回目の検討会である。今日も忌憚のない意見をいただいて計画策定に生かしていきたい。

#### 2. 第 2 回の意見概要

##### 【事務局】

・資料 1 の説明

##### 【 A 委員 】

20 年先のまちづくりとなった場合に、現在 20～30 代の職員が残っているだけとなる。議論のニュアンスも含めて引き継ぎをする、現在議論しているメンバーにブレインとして戻ってきてもらう事も考えてはどうか。

##### 【 事務局 】

このまちづくりは、都市整備部だけで進められるものではない。全庁的な組織で検討している。職員の新陳代謝はあっても、今後とも徳島市の全庁的な取組として進めていく。

#### 3. 議事等

(1) にぎわい創出に向けたまちづくり施策、(2) 徳島駅周辺まちづくりのスケジュール

##### 【事務局】

・資料 2 の説明

##### 【 会長 】

質問、意見があれば、お願いしたい。

##### 【 A 委員 】

空間再編や施策展開イメージは具体的に示されており、現時点で予算立てが可能ではないか。絵空事にしないためにも、予算の数字を把握していく必要があるのではないか。

20～30 年後の徳島市や徳島県の年齢構成別人口はどのようになっているのか。それによって高架化された場合のニーズも変わってくるのではないか。

公共空間の利用は誰に対するものなのか。対象が市民か、観光客かによって、予算も変わってくるのではないか。

【 事務局 】

鉄道線形を北側に変更する方向としており、現時点で金額を把握する事は難しい。今後深度化していく中で予算についても検討していきたい。

将来の人口は減少する見込みであり、20年後には徳島市の人口は約20万人、高齢化率も38%にまで上昇すると推計されている。まちづくり計画では、様々な世代の人に活用される空間を目指したい。

公共空間については、まずは市民や駅の利用者にとって使いやすく、居心地のよい空間にしていきたい。観光客もその空間に惹きつけられるような流れを想定している。

【 A 委員 】

駅を中心にしたまちづくり計画であるが、徳島県は二軒屋駅付近の高架や車両基地を先行着手したいという意向のようである。地元選出の国会議員もアリーナやアウトレットの整備というアイデアを持っているようである。市・県・国が同じ方向を向いていく必要があるのではないか。市も市長のみではなく、議会も巻き込んでいく必要があるのではないか。

【 H 委員 】

スケジュールについては、当初から取組む内容が多い。その中でも優先順位はあるのではないか。イベントや空間を活用していくのは、小規模から始められることもある。

インバウンドも含めた観光については、徳島市だけで検討するのは難しい。他の地域と連携した取組もあればよい。

【 会長 】

このあたりは本気度が出てくる内容である。頑張っていたきたい。

【 C 委員 】

20年先と言いながらも、計画は今から検討を進めていく必要がある。都市計画決定のプロセスも踏まえると、関係者で議論をしながら計画を詰めていく必要がある。その際に、市立体育館の用地の取扱は、駅前の整備に大きな影響を与える内容である。スポーツは駅周辺のまちづくりに重要な要素であると捉えているが、活用可能な空間の一部として検討を進めるとよいのではないかと。現在の案であれば、バスの交通処理が難しく、道路の拡幅等が必要になる場合も想定される。市立体育館の用地の活用ができれば、その点も解消できるのではないかと。

プレイスメイキング手法といって、利用できる公共空間の活用を民間と協調しながら進める手法もある。順次、調整しながら進める事が可能であり、このような手法を取り入れながら取り組める部分はあるのではないかと。

【 B 委員 】

徳島市の中心は駅前につくるという意味はしっかりと持っていたきたい。現在はイオンの周辺がにぎわっている状況がある。市の中心は駅周辺であると規定し、顔作りを進めていく必要がある。

【 A 委員 】

徳島市の中心市街地と呼ばれていたのは、東新町や西新町のあたりである。駅周辺も都市計画などで中心と位置づけるなど、まち全体での意識改革も必要になるのではないかと。駅周辺を中心市街地とするのであれば、それなりのテーマやモニュメントも必要になる。駅を降りた人が目の当たりにする風景や視線は大事にすべきである。

【 会長 】

まちの中心の論点は、今回の議論が良い機会である。考えていく必要がある。

【 G 委員 】

道路協力団体として、新町川を守る会が街角カフェを始めようとしているという話を聞いている。小さくとも始められる事はある。一方、そういった情報は誰が集約して把握しているのか不明確である。今回の検討をきっかけに、情報が集約される部署をつくっておく必要があるのではないかと。

【 A 委員 】

商工会議所では、情報発信に力を入れており、情報を集めてSNSに投稿するような取組を進めている。商工会議所のみならず、公共とも繋がっていく必要があると感じている。

【 会長 】

良好な関係で、双方が充実していけばよい。

【 C 委員 】

デザイン会議などで、関係者が集まって情報共有する場があってもよい。松山市のアーバンデザインセンター、長崎市のインハウススーパーバイザーなど様々な体制が想定される。

【 副会長 】

体制だけでなく、誰が中心になるのかがポイントである。情報発信の仕方は時代によって変わってくることから、発信に長けた人物を捕まえておく仕組みづくりが必要になる。

駅前のスポーツに関しては、まちなかをウォーキングするようなコンセプトではないかと。駐車場をなくして、歩かせるように仕向けている自治体もある。

ターゲットに応じた住宅供給に関して、ライフステージによって住み替える流れが広まってきている。駅周辺への子育て関連住宅の誘導については議論が必要であり、むしろ高齢者がターゲットになるのではないかと感じている。子育て世帯に向けては、空間整備や公園整備の観点で配慮していく必要があるのではないかと。

一番町のモール化については、鉄道と国道 192 号に囲まれた範囲は、可能な限り歩行者空間化していくような大きな方向があり、技術的にどこに車両動線を通すかといった流れの方がよいのではないかと。

スケジュールは、5～10 年が重要である。5 年の終了時点でどのような風景が駅前にできてくるのか。市民の参画を促す点でも、短期についてもビジュアルに見せる点は重要である。

【 事務局 】

健康増進については、立地適正化計画の中でも検討しており、駅前への機能誘導を検討している。歩行者動線を拡充することによって、新しい回遊が生まれ、健康に繋がる流れも想定している。

【 副会長 】

通常、運動しない人に対して、駅前のジムを提供しても運動しない。むしろ歩かせる仕掛けが大事ではないか。

【 C 委員 】

外部空間と連携した仕組みが重要である。

【 A 委員 】

駅前では温泉が出ると聞いている。資源として活用できないか。

【 会長 】

徳島駅を利用する人が増えて、滞留する施設が必要な流れになれば、ジムや温浴施設の可能性も出てくるのではないか。相乗効果になればよい。

【 A 委員 】

駅前のマンションには、高齢者の富裕層が入居しているイメージがある。駅前に子育て世代は厳しい印象がある。

【 事務局 】

子育て世代に関しても、立地適正化計画の中での対応としている。職住近接のまちづくりの方向性を掲げている。

【 副会長 】

子育て世代に対しては、駅前は支援施設がメインになるのではないか。職住近接は短時間でも公共交通の利用頻度を上げていく方向がポイントになる。

【 D 委員 】

時間軸も長いので、市民たちが身近なまちづくりとして捉えにくいのではないか。5年後にどのような風景になるのか。その通りにならずとも、ビジュアルで明るい将来像を提示してもらいたい。今の状況では関心を持ちにくい。

【 F 委員 】

組織のコーディネーターとして、現在、徳島城博物館の特別展で関連イベントを行っているアニメプロデューサーなどが考えられるのではないか。アニメ関連のイベントであるが、全国的に集客があるようである。また、眉山もアニメの聖地の一つとなっている。まちづくりのキーマンには経営感覚も必要になる。

【 A 委員 】

どれだけ地元の振興につながるか、注意が必要ではないか。

【 C 委員 】

空間との連携の中で、上手くコーディネートしていく必要がある。場所の使い方を上手く考えられる人をキーマンに据えた方がよい。

また、自動運転型のバスもキーワードに入れられるのではないか。技術的に進んできている。また、ストリート・スポーツ関連のイベントは面白そうであり、ソフト施策のキーワードとして追加する事が望ましいのではないか。

【 A 委員 】

眉山麓の新町や大工町あたりへの動線をどう確保していくのか。国道 192 号による分断を解消する必要がある。現在の陸橋では雨風がしのげない。自転車専用の横断帯を横断する人もいる。地下道の検討を進めてはどうか。

【 事務局 】

駅前から眉山方面の動線を歩行者優先の空間にするという流れとしている。国道 192 号をどのように横断させるかは今後検討していきたい。

【 B 委員 】

議会やマスコミに発表する際には、市長の口から将来のまちづくりについて発信をしていただきたい。

【 G 委員 】

幼稚園児と駅前について考える機会があった。そのような子どもたちが夢を見られるような計画としたい。

【 A 委員 】

市長が変わって、まちづくりの方針が変わる事もある。その点についても配慮が必要である。

【 会長 】

将来像についても時代背景に応じて、見直していけばよいと考えている。検討会としての議論はここまでとさせていただく。

#### 4. 閉会

【事務局】

まちづくり計画については、議会報告やパブリックコメントを経て 6 月に公表となる予定である。

-以上-